

# おーい、アポロくん!

text by Shiriji Ishii  
文いししんじ

この春小学校にあがった息子のひとひが、夜の8時過ぎ、バジャマに着替える前、

「おとーさん、ちょっとだけ、おそといっけてもいい? ほんまの、ほんまの、ほんまー、にちよっと!」

「ええよ」

ということ、ふたりガラリと引き戸をすべらせて外へ出た。うちは古い京町家がならば長屋の端っこだ。狭い歩道のまんなかで、ひとひはあちこちと顔を動かしながら、

「うーん・・・どこや・・・」

ぶつぶついつている。

「どないしたん。なにさがしてるんや」

ひとひは少し黙り、決然とした表情で一度うなずくと、僕の耳に口を寄せて、

船長とバスは月面におりたつ。「少年になったような、軽いステップで、飛んだりねたり、びよんびよんとすすんでいく」「空はまっ黒でなにもない」「月があまりに明るく照らされているから、月の表面に立つとそうみえる」

でも。

「でも、その何もないまっ暗な空の上を見れば...」アームストロング船長の聡明そうない目が斜め上方に向いている。「はるか頭上に地球が浮かんでいる。波立つ大洋、流れる雲、風にゆれる草原や森」「美しい、でも孤独な地球が、空にくっきり輝いている」

2時間ほどのミッションのあと、船長とバスはイーグルで舞い上がる。月軌道上でコロンビアとドッキング。地球へは、司令船だけで帰還した。イーグルの下半分は、いまま「静かの海」に残り、じっと青い地球を見あげているだろう。

京都に帰ったひとひは、府立図書館で大人向きのアポロ計画の写真集を借りだした。レゴでコロンビアとイーグルを作り、家じゅうを探索した結果、玄関先に「しずかのうみ」を発見、着陸した。

入学祝いにもらった図書カードで、もちろん「月へ アポロ11号のはるかなる旅」を買っ

「お、つ、き、さ、ん」

とささやいた。視線をすばやくめぐらせてみると、コープ鴨川の屋上の端に、ほんやりとおぼろ月がひっかかっている。月齢はほぼ満月。うしろからひとひを肩車し、

「ほら、あっこ!」

と僕は、高々と指さした。ひとひは僕の肩にすわって、しばらくそちらを見ていた。二十秒くらい経ったろうか、

「おとーさん。あの、アポロのちやくりくせんは、いま、どのへんにとまってんのん?」

もともと、男の子らしく、乗り物はなんでも好きだった。いや、好き、なんてものじゃない。近づいてくる市バスの車種が、日野かいすゞか三菱か日産ディーゼルか隣時に当てるし、現役のF1ドライバーの名前とチーム名はすべて暗記している。

た。こどもの日のお祝いは、僕がこっそり買っていた、100分の1サイズの立体パズル「月着陸船イーグル」だった。

いま6歳のひとひが成人するころ、宇宙と人類の距離は縮まっているだろうか。スペースシャトルにかわる「乗り合い宇宙船」が完成し、お金さえ出せば、真っ青な地球を眼下に見渡せるようになっていだろうか。

おっさんのそんな想像など、ひとひの未来にとつて、月の砂粒ほどの重みさえない。ひとひはきつと、この上なく軽いステップで、この世の表面を飛んだりねたり、びよんびよんとすすんでいく。

8時過ぎ。満月は少し横にずれて、コープ

この春出かけた九州の

ホテルに、運命のその一冊は

あった。ブライアン・フロッカ著・日暮雅通訳「月へ アポロ11号のはるかなる旅」。ひとひはロビーでめぐり、借りて部屋に持ってきた。僕は部屋で三度読みきかせ、そしてひとひはひとり、いつたい何度くりかえしめくっていたか知らない。

三人の英雄の名はひさしぶりだった。アームストロング船長、バス・オールドリン、マイケル・コリンズ。母船コロンビア、月着陸船イーグル号。

マイケル・コリンズは、ひとり母船に残って月の軌道上を周回しながらふたりを待つ。船長とバスをのせた着陸船は、ゆっくり、ゆっくり、「静かの海」へ降下していく。

アームストロング船長がコール。「ヒューストン、こちら「静かの海」ワシ(イーグル)は舞い降りた」。

鴨川の斜め上に全貌をあらわした。じつと見つめていたひとひは、僕の肩の上でもぞもぞ身じろぎすると、大きく息を吸い、そして、

「おーい、おーい、アポロくん!」

月に手を振っているらしい。正確には、静かの海に残る、着陸船イーグルに。

「もうちょっと、がまんやでー!」とひとひは夜に叫んだ。宇宙に。星に。未来に向かって。「もうちょっとしたら、びっぴ(自分のこと)、むかえにいくからねー!」



直径: 3,474.3 km (地球の1/4)  
 表面積: 3,800万km<sup>2</sup> (地球の表面積の7.4%)  
 質量: 7.347673 × 10<sup>22</sup>kg (地球の1/81)  
 表面重力: 1.622 m/s<sup>2</sup> (0.165 G) (地球の1/6)  
 年齢: 約46億年  
 自転周期・公転周期/約27.32日

### Profile

1966年大阪生まれ。京都在住。著書に小説「ぶらんこ乗り」「麦ふみクーツェ」「ポーの話」「みずうみ」「四とそれ以上の国」など、エッセイ「人生を救え!」(町田康共著)「熊にみえて熊じゃない」「遠い足の話」、絵本に「赤ずきん」(ほしよりこ絵)など多数。

